

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	12-113	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Neighborhood disadvantage and adult alcohol outcomes: differential risk by race and gender. 地域の不利益と大人におけるアルコールの影響：民族差、性差によるリスク		
執筆者		
Karriker-Jaffe KJ, Zemore SE, Mulia N, Jones-Webb R, Bond J, Greenfield TK.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2012 Nov;73(6):865-73.		
キーワード		
飲酒、地域、属性、禁欲		
要 旨		
<p>目的： 地域の不利益と飲酒者の社会的地位、暴飲、アルコールに関連した影響、アルコール依存の関係が民俗や性別によって違いがあるか検証した。地域の不利益は飲酒者の社会的地位と負の相関がある一方で、重度の飲酒や問題のある飲酒行為に対しては正の相関がある、強いて言えば黒人とヒスパニックでは他の集団と比較して顕著な関連があるという仮説を設定した。</p> <p>方法： 2000年の国勢調査のデータと合併した2000年と2005年の全米アルコール調査のデータをもとにした白人、黒人、ヒスパニックの計13,864名(女性52%、飲酒者7,493名、飲酒者のうち女性が48%)からなるランダム化された国を代表する横断的なデータを用いた。サンプル抽出と無回答に対して重み付けを用いたロジスティック回帰および線形回帰を含んだ分析を行なった。</p> <p>結果： 仮説は部分的に合致していた。多変量モデルで主たる効果として地域の不利益は禁欲者の増加と顕著に関連しており、飲酒者が経験した負の影響の増加と境界的な関連性が確認できたが、民族や性別といった属性がこれらの関連を緩和した。黒人とヒスパニック男性を除き、地域の不利益は禁欲者の増加と顕著に関連していた。飲酒者において、地域の不利益は白人における重度の飲酒に対して顕著に負の関連を示し、黒人の重度の飲酒に対して顕著な正の相関を示した。白人女性と黒人男性に対して地域の不利益は段階的なアルコールによる影響と関連を示した。</p> <p>結論： 今回得られた結果はアルコール摂取による地域の不利益に関する不均一な影響を減少させ得る介入法の開発に対する示唆を与えるものである。今後の研究では種々の地域の不利益が及ぼす重度の飲酒やアルコールの諸問題に対する影響について検証すべきである。</p>		